

<2021年9月19日(日)の士官学校長ゲイル・ホワイト少佐のメッセージ>

今日はエフェソ 2:11 からメッセージをお分かちいたします。先週ニュースでアフガニスタンの子どもたちがカブール空港の壁から投げ落とされたり、必死に逃げようとする大人たちが壁をよじのぼろうとしたりする様子が伝えられていました。タリバンの支配から逃れようとする大勢の人たちにとって、空港の壁が大きな隔てとなっています。壁は私たちの周りにもたくさんあります。中のものを閉じ込めたり外のものを止めておいたりするために壁があります。また、他人が自分の心の中に踏み込んで来ないようにするための、目に見えない壁も存在します。そして、壁がわたしたちをお互いから隔離するものになっています。エフェソ 2 章に出て来る壁は、ユダヤ人と異邦人を区別する壁を指しています。異邦人とはユダヤ人ではない人たちのこと全般を指しています。ユダヤ人ではないということは、神に選ばれた民ではない、ということの意味していました。異邦人は、神を持たない民、つまり、希望を持たない民として見られていました。ユダヤ人にとっては割礼が、神とアブラハムとの間の契約のしるしとして尊ばれていました。創世記 17 章には、アブラハムが多く国民の父となることが永遠の契約として記されています。その契約のしるしとして割礼が定められました。つまり、割礼を受けることが、神に選ばれた民のしるしとなったのです。ですから、割礼を受けていない異邦人を受け入れることにユダヤ人は困難を覚えました。わたしたちも自分とは違う人を受け入れることに困難を覚えることがないでしょうか？ ある数学者がインタビューを受けていたのを見たことがあります。彼は中国系でしたが白人の多い土地で生まれ育ちました。彼は周囲の子どもとまったく同じ仕方で生活していたのに、ただ容姿が違うだけでクラスのみんなから拒絶された、と話していました。わたしたちの小隊(教会)はどうでしょうか？ 自分と違うからと言って人をのけものにするようなことをしていないでしょうか？ クリスマスであるわたしたちは、人を分け隔てる壁を壊して行かなければなりません。わたしたちがお互いを差別し合うとき、それは罪となります。そのような罪を行ってしまうと、自分と神の間にも壁を作ってしまうのです。わたしたちが行う罪が、わたしたち自身を神から引き離してしまうのです。ユダヤ人は、その出自のゆえに神に選ばれた民であるという意識を持っていました。しかし、その特権意識のために、ユダヤ人は神に対して罪を犯すことになっていたのです。何年も前にわたしと夫はある小隊の礼拝に出席したのですが、わたしたちは救世軍の制服を着ていませんでした。その時、だれもわたしたちに声をかけてくれませんでした。次の日曜に同じ小隊に制服を着て出席すると、みんなが声をかけてくれました。それは、わたしたちの容姿によって人の態度が変わったことを意味しています。残念なことに小隊の中にも人を分け隔てる壁が存在します。それは、わたしたちが本当の意味で神に従順に従うことを妨げるものです。その隔ての壁を壊すためにこそイエスは来てくださいました。イエスはすべての隔ての壁を壊して、すべての人がひとつになることを願っておられます。エフェソ 2:14 に「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、ご自分の肉において敵意という隔ての壁を取り

壊し」とあります。イエスが地上に来て命をささげてくださいましたことにより、すべての壁が壊されました。ユダヤ人と異邦人の間の壁をイエスは取り除いてくださったのです。神の子どもとして受け入れられるために必要とされていた割礼や人が作り上げた宗教の規則という壁が取り除かれたのです。そのことは、イエスが息を引き取った瞬間に神殿の幕が裂けたことに表されています。神殿の幕は、至聖所から人を分け隔てるために設けられていました。ただ特別に選ばれた祭司だけが至聖所に入ることができたのです。しかし、イエスは至聖所の幕を取り除いて、すべての人が神に近づくことができるようにしてくださいました。エフェソ 2:15 に「規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました」とある通りです。イエスが犠牲の死を払ってください、復活してくださったことにより、すべての人がひとつとなる道が開かれました。それは、人種・皮膚の色・社会的な立場の違いの一切を取り除くものです。そこには、違う立場というものは存在しません。好みやひいきもありません。キリストにあって一つとされているのです。エフェソ 2:20 の後半には、イエス・キリストが隅の要石（かなめいし）である、と言われていています。要石とは、建物を建てる時に基礎の基礎となる石のことです。要石を据えると他のすべての石がそれに合わせて置かれて行きます。つまり、要石が建物の基準となるのです。キリストという要石こそ、わたしたちが人生をどう築いていくかの土台となります。わたしたちがどのように生きるべきか、ふるまうべきか、その模範がイエスなのです。わたしたちにはお互いの間に違いがあるかもしれませんが、それでもわたしたちが一つになれるのは、イエスがわたしたちの土台であるからです。イエスが来て、すべての壁を取り除いてくださいました。それはなんという祝福でしょうか。イエスはわたしたちに重荷を負わせるような方ではありません。イエスがそうされないのですから、わたしたちもお互いに重荷を負わせるようなことをするのは、やめて行きましょう。